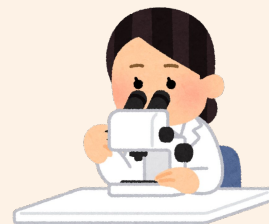


2026年度 SSH特設科目「SSII」

【第13回】 探究Dayに向けて -後編-

2026年9月10日（木）



専門的課題研究のイメージ

STEP1

研究テーマを決める

STEP2

リサーチクエスチョンを導く

STEP3

仮説を立てる

STEP4

適切な研究方法を選ぶ

中間目標

研究計画書を作成する

STEP5

調査・実験を実施する

STEP6

結果をまとめて考察し、結論を導く

STEP7

研究内容をまとめ、発表する

より高次のRQへ

高1
中間発表

探究
Day

生徒探究
発表会

step1

振り返り

step7

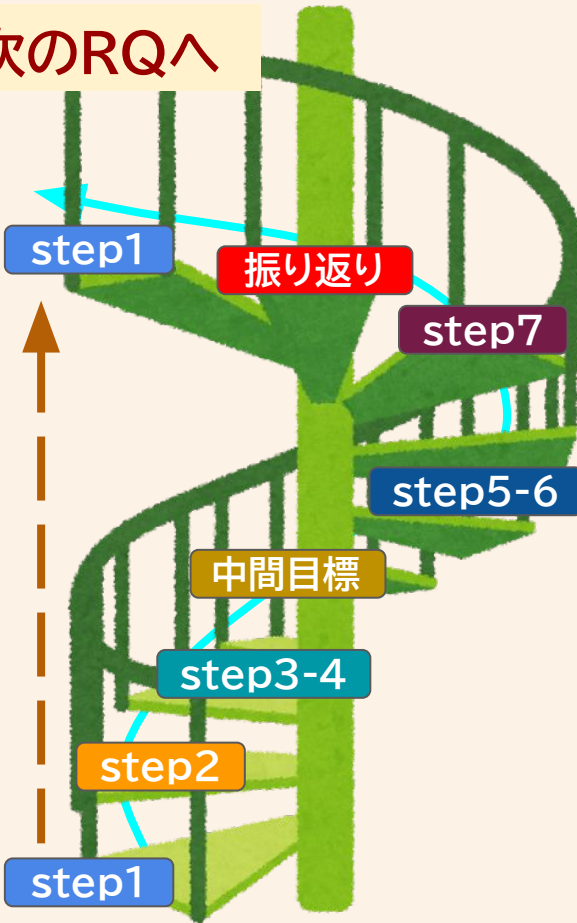
step5-6

中間目標

step3-4

step2

step1



探究Dayまでのスケジュール

9/ 3	木	各自の研究活動	今回を含めてあと 6 回
9/10	木	中期計画: 探究Dayまでに何を明らかにしたいのか？	
10/15	木	仮説検証(調査・実験)の結果の整理 → 考察・結論へ	
10/22	木	仮説検証(調査・実験)の結果の整理 → 考察・結論へ	
10/29	木	探究Day発表準備① ←発表資料8割完成	
11/ 5	木	探究Day発表準備② ←発表資料推敲・完成	
11/12	木	探究Day発表準備③ ←完成した資料の準備・発表練習	
11/14	土	探究Day	

探究Day 発表形式

課題研究メソッド
p.132、142-144 ①

研究計画書兼報告書
(1) 研究テーマ

どのような研究を行ったか、内容がわかり、かつ興味を引くタイトルをつけよう。
主題をつけて構成しても良い。

タイトル

生成AIを用いた短文記述採点方法の開発と運用

チーム番号: 777

全員の
組番号 + 氏名

チーム番号
メンバー

この3つを必ず入れる

課題研究メソッド
p.142-144 ②

研究計画書兼報告書
(3)①: リサーチエスチョン

研究の目的

- 研究に取り組んだリサーチエスチョンの内容とそれが生じた背景を示し、研究の目的を示す。
- リサーチエスチョンに対して、自分が立てた仮説とその根拠を示す。
- プレゼンテーションの導入部分として、「この研究は必要だ」「面白そうだ」というように興味をもってもらえるようにまとめる。

課題研究メソッド
p.142-144 ③

研究計画書兼報告書
(3)③ 仮説
(4) 研究方法

研究方法

- どのような研究方法を用いてリサーチエスチョンの解決に挑むのか、具体的に詳細に述べる。
具体的でない例: 「インターネットで調べる」、「アンケートを行う」
→条件、手順、対象、参考文献・データなど、研究方法に合わせて必要な情報を記載しよう。
- 時間を割き過ぎないように、順序を箇条書きにしたり、図や表を用いたりして、端的に述べるようにしよう。

課題研究メソッド
p.142-144 ④

研究計画書兼報告書
(6) 考察・結論
(7) 今後の展望

結論・展望

- 研究の結論として、リサーチエスチョンの答えを述べる。
- 展望では、この研究によって生じた問いで答えの出なかったものに対して、今後どのような調査・実験を進めていく予定なのかを述べる。

課題研究メソッド
p.142-144 ⑤

研究計画書兼報告書
(2) 研究背景

研究背景

- 初めて発表を聞く人に内容を理解してもらうために、背景となる現状や先行研究・事例を説明する。
- 発表で用いる言葉の意味や定義、現状を表すデータ、先行研究・事例を紹介する(データを引用した場合、引用元を示す)。
- これまでどのような取り組みや研究が行われ、何が分かっているのか、何がすでに解決されているのかなどを説明する。

課題研究メソッド
p.62、142-144 ⑥

研究計画書兼報告書
(3)②: リサーチエスチョンの構構

研究の意義

- 先行研究・事例をふまえ、自分が課題研究を行う前の状況を示す。
パターン1: 社会的貢献) 現在の課題に関する社会課題、未だ取り組まれていないこと、現状を放置することで起こりうる状況
パターン2: 学術的貢献) 先行研究から現在わかっていること、わかっていないこと
- 自分の課題研究が、上記の課題にどのような影響を与えるかを示す。

課題研究メソッド
p.142-144 ⑦

研究計画書兼報告書
(5) 研究結果
(6) 考察・結論

結果・考察

- 調査・実験で得られた結果を、図や表などを可能なかぎり用いて、視覚的に内容がわかるようにまとめる。
- 注目してほしいポイントを色線で囲むなど、聴衆が理解しやすいように工夫するとよい。
- 結果のデータの付近に考察内容について記述し、結論につなげる。

課題研究メソッド
p.176-177

《参考文献》

最終スライドにて、本発表で引用・参照した文献をまとめて示す。

- 本(日本語): 島川真流 (2013) 『大聖と山梨の山』 創風堂 (著者) (発行) (山梨県)
- 論文(日本語): 佐野由美子 (2020) 『「無量と菩薩」 教育社会における言語研究の位置づけ』 (著者) (発行) (論文のタイトル)
『教育社会言語学』 22(2) 144-160 (著者・年数 (論文のページ))
- Webページ: 文部科学省 (2023) 『「大学改革実行プラン」社会実装のエンジンとなる大学デジタル・イノベーション』 (作成者) (公開年・公開場所(は名称)) (Webページ)
https://www.mext.go.jp/j3/policy/kyougaku/shisaku/2023/03/20230314_1.pdf (URL)
2023年11月2日 (アクセス日)

ポスター(A3×8枚)発表

1枚目	表紙
2枚目	研究背景(先行研究・事例を用いた現状分析)
3枚目	研究の目的(リサーチエスチョン)
4枚目	研究の意義(社会や学術への貢献)
5枚目	研究方法(調査・実験方法)
6枚目	結果・考察
7枚目	結論・展望(まとめと今後の展望)
8枚目	引用文献・参考文献

探究Dayに向けて 意識すること3選

一. 探究のサイクルを回そう

適切な方法で調査・実験を行い、【調査→考察→新たな問い】のサイクルを回しましょう。

これを繰り返すことで、リサーチクエスションに迫ることができます。

一. 計画立てや役割分担をして無駄なく研究を進めよう

期限を意識してやることを整理しましょう。

チーム探究では役割を分担し、作業の重複を避けて進めてください。

一. 反証可能性を考えよう

発見があっても「本当に仮説を証明できるか」と問い続けましょう。

結論で満足せず今後の展望まで深めれば、人生に影響を与える探究になります。

今後の展望のまとめ方（課題研究メソッド 第4章）

探究Dayまでにまとめよう

- この課題研究で明らかになったことは何か？
- 取り組んだ課題研究で生まれた新たな「問い」や解決できなかったことは何か？
 - 研究の中で新たに発生した疑問や解決できなかった点について書いておこう。
 - 2月の生徒探究発表会に向けて調査・実験の見通しを発表できるようにしよう。

生徒探究発表会や外部コンテストに向けて考えよう

- 社会・学術分野にどのような変化(貢献)が見込めるか？
 - 課題研究の意義と得られた結果を結びつけ、研究成果がどのように社会や学術へ貢献するのかを書いてみよう。

責任ある研究遂行：公開段階

★復習★ 「SS I」の「研究倫理研修会」スライド より

【公開段階: Authorship & Publication】 成果の社会への還元

➤ 結果の厳密な表現

データが示す客観的な事実に限定し、過剰な解釈や断定的な表現を避ける。

➤ 再現可能性の担保

第三者が追試できるよう、研究手法、使用した機器、試薬、データ解析法などを詳細に記述する。

➤ オーサーシップの適切な決定

- 共著者: 研究への実質的な知的貢献を果たした者
- 謝辞 (Acknowledgement): 技術的支援や助言に対する謝意

「探究ノート」への記録を！

Classroom 「【全般】 探究ノート」

高校46期 SS I・II (総合探究)		探究ノート					
チーム番号		クラス	1 -	番号		氏名	
共同研究者							
↑ チームメンバー全員の組番号と氏名を記載 (例: 640 芝浦 太郎 710 柏 花子)							
【日々の活動記録】 (①を授業開始時に、②③を授業終了時に記入)							
日付	活動記録 ①今日の予定・目標 ②本日の活動内容 ③次に行うこと、次までに行うこと						
10/23	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						
10/30	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						
11/13	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						
11/20	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						
11/27	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						
12/4	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						

★作成のポイント★

毎回、**活動記録**は必ず書く！

①今日の予定・目標

授業開始時

②本日の活動内容

授業終了
5分前

③次に行うこと

個人でまとめるワークシートで、
その他の使い方は自由です。